



第33回 明治大学中央図書館企画展示

阿久悠展

—君の唇に色あせぬ言葉を—

2009年 10月15日[木]~2010年 1月31日[日]

休館日：10月28日、11月1日、11月30日、12月29日~1月4日、1月17日

明治大学中央図書館1Fギャラリー
(駿河台キャンパス・リバティタワー内)

主催：明治大学図書館 協力：(株)阿久悠 / (株)オフィス・トゥー・ワン

第33回明治大学中央図書館企画展示 「阿久悠展 一君の唇に色あせぬ言葉を」開催にあたって

阿久悠(本名・深田公之)氏は、1937(昭和12)年に、兵庫県淡路島に生まれ、1955(昭和30)年、兵庫県立洲本高等学校卒業後、単身上京し、明治大学文学部文学科日本文学専攻に入学しました。

明治大学を選んだ理由を、「なぜ明治大学であったのか、確固とした根拠があるわけではない。明治という進取の気風を感じさせる年号を、校名にしているところに魅かれたとも思えるが、さて、わからない。同じように高校の進学指導の教師に根拠を訊ねられ、校歌が好きだと答えて、不真面目だと怒られた」と、「私の履歴書」“白雲なびく”の中で回想しています。

阿久悠氏は、1959(昭和34)年に卒業後、広告代理店の宣弘社に入社し、テレビ番組やCMの制作に携わりますが、卒業・就職の5年後1964年27歳の時には、ペンネーム“阿久悠”を用いてテレビ番組の台本を書いており、作詞家としての最初の作品は、1967(昭和42)年の「朝まで待てない」(ザ・モップス)でした。

その後の活躍は誰知らぬ人のないほど有名で、生涯に書いた歌詞 5000 曲以上、映画化され、直木賞候補作ともなった『瀬戸内少年野球団』などの小説・エッセイ等著作は100冊以上、と日本歌謡曲史・文化史に遺した遺産はあまりに膨大です。日本レコード大賞をはじめとして、数多くの賞を受賞し、「ざんげの値打ちもない」「勝手にしやがれ」「北の宿から」「UFO」「青春時代」「舟唄」「宇宙戦艦ヤマト」「時の過ぎゆくままに」「あの鐘を鳴らすのはあなた」「津軽海峡・冬景色」「ジョニーへの伝言」などのヒット曲の数々。そして、都はるみ、八代亜紀、沢田研二、ピンク・レディー、森進一、石川さゆり、・・・と、歌った国民的歌手の多さも今さらながら目をみはるばかりですが、とくに、1970年代・80年代に、もの心ついている世代であるなら、そのヒット曲の歌詞やメロディーが心に鳴り響かぬ人は、おそらくほとんどいないことでしょう。

「その時代のぼくらが思った歌は、心の中のささやかなシンパシーといったものではなかった。歌はたとえば大きな翼を持った鳥のようなもので、それが時代という空を飛ぶ時、如何なる風が起きるだろう、人はその風をどう受けるだろう、というようなことを考えていたのである」(阿久悠『生きっぱなしの記』)

時代は確実にかわりますが、その風を受けとめ、かつ風を起こす精神が、若い世代に受け継がれることを願いつつ、阿久悠氏が青春時代を過ごしたこの神保町の母校において、氏の業績の一部なりとも御紹介できれば幸いです。

折しも、2009年8月1日は阿久悠氏の御命日にあたり、三回忌となります。謹んで故人の御冥福をお祈りするとともに、今回の企画に対する御遺族の御厚情に感謝申し上げます。

阿久悠 略年譜

※『阿久悠のいた時代：戦後歌謡曲史』（柏書房）などにより作成

- 1937(昭和12)年 2月7日 兵庫県淡路島に警察官の次男として生まれる。本名は深田公之。
- 1955(昭和30)年 兵庫県立洲本高等学校卒業後に上京。明治大学文学部文学科日本文学専攻に入学。
- 1959(昭和34)年 明治大学文学部文学科日本文学専攻卒業後、広告代理店の宣弘社に入社。
テレビ番組やCMの制作を手掛ける。
- 1964(昭和39)年 「阿久悠」のペンネームで、テレビ番組の台本を書き始める。
- 1966(昭和41)年 5月 宣弘社を退社し、放送作家として独立。
- 1967(昭和42)年 「朝まで待てない」(ザ・モップス)で作詞家デビュー。
- 1970(昭和45)年 「白い蝶のサンバ」(森山加代子)、「ざんげの値打ちもない」(北原ミレイ)が大ヒット。
- 1971(昭和46)年 6月 企画書を書いた伝説のオーディション番組「スター誕生!」放送開始。
審査員としてピンク・レディーら数多くのスターを発掘、育成。「また逢う日まで」(尾崎紀世彦)で第13回日本レコード大賞、第2回日本歌謡大賞受賞。
- 1972(昭和47)年 著作第1作『作詞入門』(産報)を刊行。
- 1973(昭和48)年 「ジョニイへの伝言」(ペドロ&カプリシャス)、「じんじんさせて」(山本リンダ)で第15回日本レコード大賞作詩賞を受賞。
- 1974(昭和49)年 「さらば友よ」(森進一)で第7回日本作詩大賞受賞。
- 1975(昭和50)年 久世光彦の依頼で「悪魔のようなあいつ」を劇画化、『ヤング・レディ』に連載開始。
沢田研二主演でTVドラマ化。主題歌「時の過ぎゆくままに」がヒット。
- 1976(昭和51)年 「月刊You」創刊。編集長として約4年間刊行。
「北の宿から」(都はるみ)で第18回日本レコード大賞、第9回日本作詩大賞、第7回日本歌謡大賞、第5回FNS歌謡グランプリ受賞。
- 1977(昭和52)年 「勝手にしやがれ」(沢田研二)で第19回日本レコード大賞、第10回日本作詩大賞、第8回日本歌謡大賞受賞。「津軽海峡・冬景色」(石川さゆり)で第6回FNS歌謡グランプリ受賞。
- 1978(昭和53)年 『ゴリラの首の懸賞金』(スポニチ出版)で小説デビュー。
「UFO」(ピンク・レディー)で第20回日本レコード大賞、「サウスポー」(ピンク・レディー)で第9回日本歌謡大賞受賞。
- 1979(昭和54)年 『瀬戸内少年野球団』で第82回直木賞候補、その後映画化され1980年に公開。
スポーツニッポン新聞で「甲子園の詩」連載開始(～2006年)。
- 1980(昭和55)年 「雨の慕情」(八代亜紀)で第22回日本レコード大賞、第11回日本歌謡大賞受賞。
- 1981(昭和56)年 「もしもピアノが弾けたなら」(西田敏行)で第14回日本作詩大賞受賞。
- 1982(昭和57)年 『殺人狂時代 ユリエ』で第2回横溝正史賞受賞。
- 1984(昭和59)年 「北の蛍」(森進一)で第17回日本作詩大賞受賞。
- 1986(昭和61)年 「熱き心に」(小林旭)で第28回日本レコード大賞作詩賞受賞。
- 1987(昭和62)年 「追憶」(五木ひろし)で第8回古賀政男記念音楽大賞受賞。
- 1994(平成6)年 「花のように鳥のように」(桂銀淑)で第36回日本レコード大賞作詩賞受賞。
- 1996(平成8)年 「蛍の提灯」(坂本冬美)で第38回日本レコード大賞作詩賞受賞。
- 1997(平成9)年 作詞活動30周年の業績により第45回菊池寛賞受賞。
- 1998(平成10)年 明治大学特別功労賞受賞。
- 1999(平成11)年 紫綬褒章受章。第7回スポニチ文化芸術大賞グランプリ受賞。
- 2000(平成12)年 小説集『詩小説』で第7回島清恋愛文学賞受賞。長編小説『ラヂオ』がラジオドラマ化され、第38回ギャラクシー賞ラジオ部門優秀賞受賞。
- 2003(平成15)年 第3回正論新風賞受賞。
- 2005(平成17)年 『人間万葉歌～阿久悠作詞集』(5枚組CDボックス)を発売。
- 2006(平成18)年 第48回日本レコード大賞功労賞受賞。
- 2007(平成19)年 8月1日 永眠。享年70。同日付で旭日小綬章受章。
レコード会社5社よりCD『阿久悠を歌った100人』発売。
第49回日本レコード大賞特別賞、同特別功労賞受賞。

阿久悠 —時代の中の隠れた飢餓をつかむ—

大学史資料センター委員 吉田 悦志(国際日本学部教授)

(1) 巨大彗星逝く ～驚異の光跡～

平成19年8月1日、阿久悠が逝った。深田公之(ふかだ・ひろゆき)、実名である。日本レコード大賞大賞5回、日本レコード大賞作詩賞7回、日本作詩大賞8回、受賞。40年の間に、5千曲を超える作品を創出。100冊に及ぶ著書を梓に上す。驚異の健筆、多作ぶりである。

多作だけなら「驚異」ではない。「ピンポンパン体操」「宇宙戦艦ヤマト」「北の宿から」「居酒屋」「津軽海峡・冬景色」「時代おくれ」「舟唄」「UFO」。フィールドの広さが加わる。さらに質が作品を保証する。だから「驚異」としか言えぬ。自らに課した「阿久悠作詞憲法十五条」の十五条に「歌は時代とのキャッチボール。時代の中の隠れた飢餓に命中することが、ヒットではなかろうか」と、阿久は書きつけている。時代をしかとつかみ、時代に生きる日本人の求める思い(「飢餓」)を探し出し、気付かせ、共鳴させ、そして時代を超える。いま阿久悠は、燦として輝き、毅として存する。



阿久悠氏(写真提供: オフィス・トゥー・ワン)

(2) 風が吹いている海峡が流れている ～淡路島～

父友義、母ヨシノの間に、次男として昭和12年2月7日淡路島に生まれる。4人兄妹。父友義は、淡路島を転々としながら暮らした巡査であった。だから生まれた場所が淡路島の、兵庫県津名郡鮎原村であっても、後年の阿久悠にとってはそこは「故郷」ではない。ふるさと意識を持たず、移動する空間と流れゆく人々を、心に刻んだ深田少年が、はるか後年「北の宿」にしようが、「津軽海峡」を臨もうが、常に通りすがりの、明日はよそへ行く人を唄ったのは、そのことと無縁ではありえない。「風が吹いている海峡が流れている」、「春三月少年は海峡を渡る」(「明石海峡の詩」)のである。

(3) 青春時代の真ん中は ～明治大学～

深田公之少年が、高校時代、映画館の闇の中で憧れた「東京」を、丸ごとつかむために海峡を渡り、入学したのが明治大学文学部であった。「明治」という進取的名称を冠した大学、「白雲なびく駿河台」という校歌を持つ大学に好感を持ったという。昭和30年4月入学。

深田青年の「青春時代」は必ずしも「道に迷っているばかり」ではなかったようである。無目的ではあったが、あらゆる事象や動向に知的好奇心を持ち、貪欲に「時代」を吸収していった。邦画洋画を見、貸本屋で借りた大衆本、書店であがなった文芸本を読み、新宿・上野・人形町の寄席を見聞し、ジャズ喫茶で音楽を聴いた。高校、大学、広告代理店宣弘社時代、そして作詞家へと、曲折はあろうと、あらゆる社会現象に、知的好奇心を持ち「時代」をわが心身に血肉化していく、阿久悠の姿勢は生涯不変である。

(4) ざんげの値打ちもない ～阿久悠と美空ひばり～

宣弘社で、阿久悠は2人の人物と奇跡的な出会いをした。1人は上村一夫、後劇画作家になる。代表作に『同棲時代』『修羅雪姫』などがある。阿久が出会った初めての天才であった。音楽、絵、ドラマ制作で互いに刺激を与え続けることになる。今1人が最大の理解者であり妻となる児島雄子。彼女は深田公之の才能を無名のころから見抜いていた。またこのころ阿久が生涯かかわりをもつオフィス・トゥー・ワンを知る。広告代理店社員・深田公之と、放送作家・阿久悠の2重生活をこなすハードな時代に突入する。

そして昭和42年「朝まで待てない」の作詞で、A面デビュー。作詞家・阿久悠の誕生である。「白い蝶のサンバ」「ざんげの値打ちもない」など衝撃的な作品を量産していくことになる。ことに「ざんげの値打ちもない」は、暗く反社会的でも、すべてのタブーを書きながら、わが存在を示そうとした作品であると、阿久悠はいう。「阿久悠作詞憲法十五条」、一条は「美空ひばりによって完成したと思える流行歌の本道と、違う道はないものであろうか」である。日本歌謡曲史を勉強しないと答えは出せないが、さしずめ、「ざんげの値打ちもない」が狙った方向性に一条の具体化が揺曳していることは確かである。阿久悠と美空ひばり。日本歌謡曲史最大のモチーフがここにある。

(5) 女ごろの未練でしょう ～「女」ではなく「女性」を唄う～

紙幅足りず、ここでは、最後に、「北の宿から」「UFO」「雨の慕情」「また逢う日まで」「津軽海峡・冬景色」に阿久悠の「女性」像を読みつないで、この稿を終える。「作詞憲法」六条に「『女』として描かれている流行歌を、『女性』に書き換えられないか」とある。

「女ごろの未練でしょう」（「北の宿から」）は文末が「か」ではない。「か」と問えば、答えを相手に依存する「女」でしかない、と阿久は言う。「でしょう」で、自立意識が違ってくるのである。「地球の男にあきたところよ」（「UFO」）は、解説不要。「雨々ふれふれもつとふれ／私のいい人つれて来い」（「雨の慕情」）では、未練がましく自分からは男のもとにいかない。ここにいるからつれて来い、なのである。別れる時、「ふたりでドアをしめて／ふたりで名前消して」（「また逢う日まで」）今は別の道を行くだけである。「さよならあなた私は帰ります」（「津軽海峡・冬景色」）。「帰ります」と哀しみの果てに決然と冬景色に佇立しようとしている「女」ではなく「女性」がいる。「女ごろの未練でしょう」と「女ごろの未練でしょうか」では、だから、雲泥の差がある。



思索に耽る阿久悠氏（写真提供：オフィス・トゥー・ワン）

最後に、冊子「you」と、阿久悠写真を快く提供いただいた、オフィス・トゥー・ワンと御手数を煩わした同社の関係者の方に感謝申し上げます。また、「you」のほか、阿久悠『生きっぱなしの記』（日本経済新聞社）、『大人のウォーカー』（08・3角川クロスメディア）など参看した。

また逢う日まで

阿久悠

また逢う日まで

逢える時まで

別れのそのわけは話さぬくない

なぜか 忘れられたい

なぜか 忘れられたい

心がこぼれたい

すべてをなくすから

ふりりでドアを叩いて

ふりりで名前を呼んで

その時 心は何かを話さばろう

また逢う日まで

逢える時まで

あなは何かを話さばろう

阿久悠

それは 知りたくない
それは 忘れられたい
心がこぼれたい
昨日のこともさう

ふりりでドアを叩いて

ふりりで名前を呼んで

その時 心は何かを話さばろう

ふりりでドアを叩いて

ふりりで名前を呼んで

その時 心は何かを話さばろう

阿久悠

「歌だけが残る」とあなたは言った —「阿久悠展」によせて—

深田 太郎

今回ご縁があり父・阿久悠の母校である明治大学の中央図書館にて「阿久悠展」を開催して頂く事になった。

5000曲以上の作詞と100冊以上の著作とは我が父ながら恐ろしい超人的仕事量である。今回の展示はそのごく一部であるが、40年に及ぶ阿久悠の仕事の軌跡をご紹介出来ればと思う。展示に当たり御協力頂いた関係者の皆様にはこの場を借りて御礼申し上げます。



執筆中の阿久悠氏（写真提供：オフィス・トゥー・ワン）

おびただしい数の受賞トロフィーや盾も父の輝かしい業績を物語っているが、まずは生原稿をご覧いただきたい。

生前自らを「アナログの鬼」と呼んでいた父は、死ぬまで手書き・縦書きにこだわり続けた。父の持論は「ワープロ打ちの横書きの文章は首を横に振りながら読むが、縦書きは上から下へウンウンと頷きながら読む」。すなわち横書きは「NO」、縦書きは「YES」というワケだ。自身のHP「あんでばんだん」発足時も「縦書きでやってほしい」と言ってスタッフを慌てさせた。これも実に昭和の仕事師らしいエピソード。ちなみに原稿執筆時は高価な万年筆などではなく、愛用したのは1本105円の水性感ペンだった。

今回の展示会で阿久悠に興味を持たれた方は是非とも父が世に残した歌の数々を実際に聴いてみてほしい。演歌でもポップスでも歌謡曲でもアニメソングでもジャンルは何でもいい。昭和という時代を猛スピードで翔けめぐる鬼才の織りなす色鮮やかな言葉たちが、必ずや貴方の心の中に侵入してくることだろう。そしていつしかそれは貴方の感性となって育まれていくのだ。

いや。阿久悠の作品である事もことさら意識する必要はない。ただただ音に身を任せてくれればそれでいい。70年代、80年代にかけて日本人が熱狂した歌謡曲（うた）というものを、街を歩けばどこからでも聞こえて来た「本当の」ヒット曲が存在したという事を知ってほしいと切に願う。その中には貴方が子供の頃に耳にした曲もあるかも知れない。そして今貴方が口ずさむ事から歌の未来がふたたび始まる。

阿久悠はもういない。歌だけが残る。そう、歌だけが残るのだ。

左ページ

作詞自筆原稿 「また逢う日まで」

作曲・筒美京平、歌・尾崎紀世彦 1971（昭和46）年2月発売。

同年の日本レコード大賞、日本歌謡大賞受賞。1972年春の選抜高校野球大会入場行進曲

阿久悠

作詞代表作



1967

『朝まで待てない』ザ・モップス
『ブラインド・バード』ザ・モップス

1968

『星空の孤独』和田アキ子
『ペラよ急げ』ザ・モップス
『お前のすべてを』ザ・モップス

1969

『白いサンゴ礁』ズー・ニー・ヴー
『港町シャンソン』ザ・キャラクタース

1970

『白い蝶のサンバ』森山加代子
『笑って許して』和田アキ子
『真夏のあらし』西郷輝彦
『ざんげの値打ちもない』北原ミレイ
『ひとりの悲しみ』ズー・ニー・ヴー
『酔いどれかぐや姫』南高節とかぐや姫

1971

『また逢う日まで』尾崎紀世彦
『さらば涙と言おう』森田健作
『昨日、今日、明日』井上順之
『さだめのように川は流れる』香真理子
『女はそれをがまんできない』大信田礼子
『天使になれない』和田アキ子
『愛は燃えているか』西郷輝彦
『とても不幸な朝が来た』黛ジュン
『さよならをもう一度』尾崎紀世彦
『愛する人はひとり』尾崎紀世彦
『ノックは無用』大信田礼子
『ピンポンパン体操』杉並児童合唱団／金森勢
『可愛いひとよ』クック・ニック＆チャッキー
『たった二年と二ヶ月で』三音たかお（水森英夫）
『燃える恋人』本郷直樹
『こんな女に俺がした』榎木冬

1972

『友達よ泣くんじやない』森田健作
『京都から博多まで』藤圭子
『本牧メルヘン』鹿内孝
『この愛に生きて』内山田洋とクール・ファイブ
『ふたりは若かった』尾崎紀世彦
『あの鐘を鳴らすのはあなた』和田アキ子
『ミュンヘンへの道』ハニー・ナイツ
『どうにもとまらない』山本リンダ
『ブルージンの子守唄』萩原健一
『京都の女の子』研ナオコ
『せんせい』森昌子
『恋唄』内山田洋とクール・ファイブ
『狂わせたいの』山本リンダ
『同級生』森昌子
『昭和放浪記』水前寺清子
『放浪船』森進一
『あなたに賭ける』尾崎紀世彦
『ワイルドセブン』ノンストップ
『冬物語』フォー・クローバース
『デビルマンのうた』十田敏三
『今日もどこかでデビルマン』十田敏三
『じんじんさせて』山本リンダ
『青春挽歌』かまやつひろし
『幼きもの手をひいて』かまやつひろし

1973

『若草の髪かざり』チェリッシュ
『中学三年生』森昌子
『狙いうち』山本リンダ
『ジョニーへの伝言』ペドロ＆カプリシャス
『酒は大関あればいい』森山良子
『ウルトラマン・タロウ』武村太郎／みずうみ
『珊瑚礁に何を見た』上條恒彦
『コーヒーショップで』あべ静江
『絹の靴下』夏木マリ
『街の灯り』界正章
『哀しみのペラドンナ』橋まゆみ
『わたしの青い鳥』桜田淳子

『個人授業』フィンガー5
『みずいろの手紙』あべ静江
『冬の旅』森進一
『愛さずにいられない』野口五郎
『五番街のマリーへ』ペドロ＆カプリシャス
『花物語』桜田淳子
『記念樹』森昌子
『カントリー・ドリーマー』ブラウン・ライズ
『恋のダイヤル6700』フィンガー5
『きりぎり舞い』山本リンダ
『長距離バス』森田公一とトップギャラン
『渚にて』いしだあゆみ
『ミクロイドS』ヤング・スターズ
『ヤンマダアゲハだマメソウだ』ヤング・スターズ
『レッドパロン』朝コータロー

1974

『飛べ!!宇宙のレッドパロン』団しん也
『こころの叫び』野口五郎
『円舞曲』ちあきなおみ
『お手やわらかに』夏木マリ
『学園天国』フィンガー5
『さらば友よ』森進一
『ひまわり娘』伊藤咲子
『黄色いリボン』桜田淳子
『恋のアメリカン・フットボール』フィンガー5
『かなしみ模様』ちあきなおみ
『恋の大予言』フィンガー5
『北航路』森進一
『宇宙戦艦ヤマト』ささきいさお／ロイヤル・ナイツ
『真赤なスカーフ』ささきいさお／ロイヤル・ナイツ
『木枯しの二人』伊藤咲子
『はじめての出来事』桜田淳子
『ウルトラマンレオ』真夏竜／みずうみ
『戦え!ウルトラマンレオ』真夏竜／みずうみ
『人魚の夏』小林美樹
『マッパパロン』すぎうらよしひろ
『めざめ』木之内みどり
『愛々時代』岡崎友紀
『彼と...』三善英史

1975

『二重唱(デュエット)』岩崎宏美
『洒落にしましよ』越路吹雪
『十七の夏』桜田淳子
『乙女のワルツ』伊藤咲子
『ロマンス』岩崎宏美
『お前に惚れた』萩原健一
『時の過ぎゆくままに』沢田研二
『下宿屋』森田公一とトップギャラン
『乳母車』森田公一とトップギャラン／菅原洋一
『センチメンタル』岩崎宏美
『北の宿から』都はるみ
『好奇心』黒木真由美
『感情線』黒木真由美
『神さまお願い』黒木真由美
『吟遊詩人』ガロ
『一本の煙草』ガロ
『ノックは暗号』リンリン・ランラン
『恋の雨音』リンリン・ランラン
『初恋時代』森昌子／桜田淳子／山口百恵

1976

『故郷』森進一
『立ちどまるな ぷりむくな』沢田研二
『ファンタジー』岩崎宏美
『おもいで唄』新沼謙治
『二日酔い』梓みちよ
『君よ抱かれて熱くなれ』西城秀樹
『おまえさん』木の美ナナ
『人間はひとりの方がいい』森田公一とトップギャラン
『みかん』大竹しのぶ
『未来』岩崎宏美
『水中花』井上忠夫
『夏にご用心』桜田淳子
『目覚めた時には晴れていた』伝書鳩
『嫁に菜ないか』新沼謙治
『ジャガー』西城秀樹
『踊り子』井上忠夫／フォーリーブス
『二十二歳まで』ダーク・ダックス
『青春時代』森田公一とトップギャラン

『ベッパ―警部』ピンク・レディー
『若き獅子たち』西城秀樹
『ふり向くな君は美しい』ザ・パース
『ドリーム』岩崎宏美
『S・O・S』ピンク・レディー
『津軽海峡・冬景色』石川さゆり
『ラストシーン』西城秀樹
『おもいやり』黒木憲

1977

『雨やどり』都はるみ
『想い出の樹の下で』岩崎宏美
『さよならをいう気もない』沢田研二
『ヘッドライト』新沼謙治
『月は裏に』チェリッシュ
『カルメン'77』ピンク・レディー
『悲恋白書』岩崎宏美
『能登半島』石川さゆり
『気まぐれヴィーナス』桜田淳子
『勝手にしやがれ』沢田研二
『学生街の四季』岩崎宏美
『渚のシンドバッド』ピンク・レディー
『気絶するほど悩ましい』Char
『秋田から来た先生』左とん平
『熱帯魚』岩崎宏美
『ワインカラーのときめき』新井満
『君よ八月に熱くなれ』高岡健二
『過ぎてしまえば!』森田公一とトップギャラン
『暖流』石川さゆり
『思秋期』岩崎宏美
『フォンテッド(指名手配)』ピンク・レディー
『憎みきれないろくでなし』沢田研二
『ボタンを外せ』西城秀樹
『東京物語』森進一
『逆光線』Char
『UFO』ピンク・レディー

1978

『二十才前』岩崎宏美
『あなたに今夜はワインをふりかけ』沢田研二
『サムライ』沢田研二
『甘ったれ』森進一
『夢人中』小林旭
『フルーツをぬいで朝食を』西城秀樹
『サウスボーイ』ピンク・レディー
『狼なんか怖くない』石野真子
『闘牛士』Char
『男と女・昭和編』井出せつ子・みなみらんぼう
『砂になりたいたい』石川さゆり
『GIVE UP!』宮前ユキ
『あざやかな場面』岩崎宏美
『ターニング』沢田研二
『林檎抄』森進一
『股旅'78』橋幸夫
『炎』西城秀樹
『林檎殺人事件』郷ひろみ&樹木希林
『モンスター』ピンク・レディー
『わたしの首領』石野真子
『火の国へ』石川さゆり
『シンデレラ・ハネムーン』岩崎宏美
『ヤマトより愛をこめて』沢田研二
『たそがれマイ・ラブ』大橋純子
『ブルースカイ プルー』西城秀樹
『透明人間』ピンク・レディー
『彼岸花』森昌子
『LOVE(抱きしめたい)』沢田研二
『世迷い言』日吉ミミ
『カメレオン・アーミー』ピンク・レディー
『送春曲』野口五郎
『失恋記念日』石野真子

1979

『カサブランカ・ダンディ』沢田研二
『ジバング』ピンク・レディー
『口紅をふきとれ』研ナオコ
『サンタモニカの風』桜田淳子
『地平を駆ける獅子を見た』松崎しげる
『真夏の夜の夢』野口五郎
『OH!ギャル』沢田研二
『舟唄』八代亜紀
『いつも心に太陽を』郷ひろみ
『波乗りバイレーツ』ピンク・レディー
『女になって出直せよ』野口五郎
『赤道直下』ジョニー大倉&バケーション・クラブ
『マンデー・モナリザ・クラブ』ピンク・レディー
『デューク』草刈正雄
『夢を語る相手がいれば』沢田研二
『ヤマト!!新たな旅立ち』ささきいさお
『ザ・ウルトラマン』ささきいさお
『日曜日はストレンジャー』石野真子
『プリティ・プリティ』石野真子
『ワンダー・ブギ』石野真子

1980

『雨の慕情』八代亜紀
『涙きらり』森進一
『鶴という名の酒場』石川さゆり
『酒場でDABADA』沢田研二

『港町絶唱』 八代亜紀
『No.1』 柏原よしえ
『毎日がバレンタイン』 柏原よしえ
『第二章・くちづけ』 柏原よしえ
『地球の丸さを知る子供たち』 初島小中学校校歌
『バラダイス・コネクション』 オール・ジャパン・デビル・バンド
『トゥモロー』 オール・ジャパン・デビル・バンド
『風が吹けば』 狩人
『愛よその日まで』 布施明

1981

『OH!』 ピンク・レディー
『春は横顔』 大塚博堂
『トマトジュースで追いかえすのかい』 大塚博堂
『いい夢みろよ』 西田敏行
『もしもピアノが弾けたなら』 西田敏行
『D』が眠ったあとで』 ジョニー大倉
『夢追いびとよ』 黛ジュン
『鳥の詩』 杉田かおる
『十年ロマンズ』 ザ・タイガース
『めらんごりい白書』 柏原よしえ
『未知という名の船に乗り』
第48回NHK全国音楽コンクール小学校の部 課題曲
『気分はアカブルコ』 浅野ゆう子

1982

『麗人』 沢田研二
『色つきの女でいてくれよ!』 ザ・タイガース
『愛しつづけるボレロ』 五木ひろし
『契り』 五木ひろし
『居酒屋』 木の美ナナ／五木ひろし
『家族の神話 Don't Say Me Good-bye Boy』 井上大輔
『モ・ナ・リ・ザ』 井上大輔
『アンサーソングは哀愁』 早見優
『ダーリンすべてを忘れようじゃないか』 松田優作
『飛翔』 太子東中学校校歌
『化石の荒野』 しばたはつみ

1983

『こころ乱して 運命かえて』 内藤やす子
『夏女ソニア』 もんたよしのり／大橋純子
『素顔にシンデレラ・コンプレックス』 郷ひろみ
『湘南哀歌』 山本譲二
『日本海』 八代亜紀
『スペインへ行きたい』 田中美佐子
『シャム猫のララバイ』 田中美佐子
『ファドが聴こえる』 田中美佐子
『お茶の水えれい』 井上順

1984

『瀬戸内行進曲 (In The Mood)』 クリスタルキング
『北の壁』 森進一
『サブリナ』 因幡晃
『騎士道』 田原俊彦
『流されて』 趙容弼
『黎明』 石原裕次郎
『未完の肖像』 岩崎宏美
『風来坊』 加藤登紀子
『So Long 想Long』 H2O
『ねご囃んじやった!』 白雪姫BAND

1985

『夏ざかり ほの字組』 Toshi & Naoko
『男詩』 山本譲二
『熱き心に』 小林旭
『地図のない旅』 近藤正臣
『吟遊詩人』 沢田研二
『はるかに遠い夢』 沢田研二
『いとしき人よ語れ』 永井龍雲
『悲歌 (えれい)』 北原ミレイ
『ある白印象派』 薬師丸ひろ子
『六本木ワルツ』 フランク永井

1986

『わたしを棄てたらこわいよ』 内藤やす子
『時代おくれ』 河島英五
『ベルエポックによるしくー』 WHATS' 55ー』 田原俊彦
『港町三文オペラ』 日高正人
『もう一度ふたりで歌いたい』 和田アキ子
『あッ』 田原俊彦
『お嬢さん』 田原俊彦
『女神』 沢田研二
『旅空夜空~言うもはずかし~』 小林旭
『目で殺す』 田原俊彦

1987

『KID』 田原俊彦
『ハーモニカの詩』 小林旭
『さわい季節』 沢田研二
『追憶』 五木ひろし
『A・r・i・e・s』 柏原芳恵
『冬の孔雀』 柏原芳恵
『夜叉のように』 山本譲二
『可愛いひとよ』 山瀬まみ

『抱擁』 和田アキ子
『ろまんちすと』 河島英五
『古城の月』 小林旭
『花も嵐の放浪記』 五木ひろし

1988

『豊後水道』 川中美幸
『かもめの歌』 八代亜紀
『東京白夜』 内山田洋とクール・ファイブ
『恋するような友情を』 シブがき隊
『港の五番町』 五木ひろし
『THE BAND』 ビートたけしwithたけし軍団COUNT DOWN
『BOY ~If「m」?』 ビートたけしwithたけし軍団COUNT DOWN
『東京子守唄』 ビートたけし
『LONG LONG AGO』 菅原洋一
『ココハマ ドラゴン サンバ』 本多俊之ラジオクラブ
『Stranger ~Only Tonight~』 沢田研二
『絆』 五木ひろし
『女 泣き砂 日本海』 川中美幸
『花蕾』 美空ひばり
『人』 美空ひばり
『さらばオーシャン』 加山雄三 & ザ・ワイルドワンズ

1989

『ダイヤモンドの鷹』 竜童組
『USAGI』 内藤やす子
『学園天国』 小泉今日子
『おんなの一生』 島倉千代子
『恋唄』 前川清
『本気 (マジ)』 本田理沙
『居酒屋 part II』 五木ひろし／田中好子
『娯楽』 黒沢年男

1990

『化粧のあと』 和田弘とマヒナスターズ
『花束 (ブーケ)』 八代亜紀
『えとらんぜ』 近藤真彦
『2年目のジグス』 ピンク・レディー

1991

『カクテル』 八代亜紀
『やせがまん』 唐木淳
『秋霖』 堀内孝雄
『墮天使』 内藤やす子
『冷たくしないで』 西田敏行

1992

『春夏秋冬』 石川さゆり
『悲しい歌が流ります』 森進一
『回転木馬』 桑名正博
『三都物語』 谷村新司
『ホテル港や』 石川さゆり
『なぜ口笛を吹かなくなったか』 森山良子

1993

『約束』 シンシア
『アモーレー~はげしく愛して~』 桂銀淑
『あれから』 小林旭
『純情』 吉田拓郎 & 加藤和彦
『今ありて』 谷村新司

1994

『花のように 鳥のように』 桂銀淑
『ロックの好きなベイビー抱いて』 シーナ & ザ・ロケッツ
『さあね』 本田美奈子
『BBちゃん雲にのる』 本田美奈子
『おおらか~北国の空の下で~』 本田美奈子

1995

『美し都~がんばらよ We love KOBE~』 平松愛理

1996

『ちょうちんの花』 川中美幸
『so-dane』 小林旭
『乾いた花びら』 小林旭
『恋歌ふたたび』 川中美幸
『螢の提灯』 坂本冬美
『愛は一度だけですか』 シンシア

1997

『交叉点~そう それがそう~』 薬師丸ひろ子
『恋文』 薬師丸ひろ子
『とまごまいサンバ』 長山洋子
『永遠の旅路』 五木ひろし
『ぼくがいる~コナンのテーマ』 伊織
『心くばり』 杉良太郎

1998

『月の盃』 石川さゆり
『酒場の金魚』 香田晋

『艶歌師』 香田晋
『東京ではめずらしい四月の雪』 香田晋
『丘のホテルの物語』 香田晋
『北風の詩』 香田晋
『DS1』 すがわらやすのり
『てふてふ』 タ・カーボ
『BOO~おなかがあくほど笑ってみたい~』 ゴスペラーズ
『ナザレの舟唄』 門倉有希
『元氣なの!』 菊池麻衣子
『SOS'99』 ROLLY

1999

『甲子園の詩』 水前寺清子
『昭和最後の秋のこと』 森進一／桂銀淑／浜圭介 (競作)
『ベースボール天国』 影山ヒロノブ

2000

『麗月夜』 八代亜紀
『すずらんのうた』 終瑠美／灘麻太郎
『黄昏のラジオ』 茂森あゆみ
『天国はあるけれど天国には誰もいない』 シーナ & ザ・ロケッツ
『MAY BE』 シーナ & ザ・ロケッツ
『ムーンライト・エクスプレス』 チェウニ

2001

『昭和恋唄』 小林旭
『八月十五夜の笛吹き』
駿河台倶楽部 (明治大学グリークラブOB合唱団)
『何処へ』 香田晋
『男と女の部屋』 山崎ハコ

2002

『傘人中』 五木ひろし
『二行半の恋文』 五木ひろし
『転がる石』 石川さゆり
『ムカン』 都はるみ
『愛のメリクリスマス』
五木ひろし／堀内孝雄／ハロープロジェクト聖歌隊
『angel~天使を見つけた~』 伍大夏子／ソル・ウンド
『でんでん虫』 氷川きよし
『儼佛』 佐々木秀実
『ララバイをどうぞ』 佐々木秀実
『おまえのための恋唄』 新沼謙治

2003

『テレビが来た日』 ピンク・レディー
『人間模様』 石川さゆり
『葉の花情歌』 永井裕子
『北物語』 五木ひろし
『早春』 五木ひろし
『望郷の詩』 五木ひろし
『誓いのなごさ~砂に書いたメッセージ~』 五木ひろし

2004

『悲しい歌はきらいですか』 田川寿美
『花になれ』 田川寿美
『ふるえて眠る子守唄』 渚ようこ
『おいしい水』 前川清
『赤い糸の伝説』 前川清

2005

『胸熱くして』 堀内孝雄
『はな』 森進一
『秋のホテル』 森進一
『九十九詩人』 西海国立公園指定50周年記念曲

2006

『青春のたまり場』 あさみちゆき
『恋人たち』 門倉有希
『哀愁のロカビリアン』 渚ようこ
『風流アメリカ囃子』 渚ようこ
『D』だけが起きている』 渚ようこ
『夜もすがら踊る石松』 中村美律子

2007

『愛の流星群』 ESCOLTA
『悦楽の園』 長山洋子
『神様がくれた愛のみち』 ベギー葉山
『嘆きの天使』 若林ケン
『聖橋で』 あさみちゆき
『KABUKU』 渚ようこ
『どうせ天国へ行ったら』 渚ようこ

2008

『今も好きだから~時は流れて』 ESCOLTA
『バラダ』 ESCOLTA
『目を見て語れ 恋人たちよ』 高橋真梨子

2009

『風に吹かれて 再会篇』 南こうせつ

時代の風

阿久 悠

特別功労賞、本当にありがとうございました。オリンピック選手なら、ここでこういう具合にメダルを誇示して見せるところでしょうが…。初めての経験なので、大変感動しております。

今から39年前に、あまり優秀でもない成績で卒業した大学から、こういう賞をいただきまして、まことに感無量といいますか、母校の温かさをいま感じているところです。温かさといいますか、少しからかわれたかなという感じもないではないのですが、素直に嬉しくいただきたいと思っております。

昨夜、総長・学長とちょっとお食事する機会がありまして、実に久しぶりに駿河台へ行ってきました。駿河台の風景がすっかり変わってありました。これは「未来」だと感じるような建物が屹立してありました。しかし、僕の心の中には、39年前に、すでに朽ちかけていた記念館という、あのものすごい建物の印象が未だに残っているわけです。嘘か本当か分かりませんが、あの建物は、ドイツの刑務所を専門に設計している人が建てたといわれて、そう言われてみると、階段も狭く、とても大勢で脱走することはできないだろうというような感じになっておりました。

地下に入りますと、どこに何があるのかさっぱり分からず、僕は1年のときに取り残した体育の補習を受けるために水泳をとったわけですけど、とうとう4年間、あの地下にあると称されているプールが、どこにあるのか分からないままに過ぎてしまっていて、きのう、学長・総長に「本当にあの地下にはプールがあったのか」ということを尋ねて、「あった」と。幻ではないということだけは確認したわけです。

そういった不思議な建物と、ピカピカ光る近代の技術の粋を集めた建物と、どっちが値打ちがあるかといいますと、これは分かりません。ただ、未来というものが突然現れたものではなく、過去のそういうものの上に初めて現れたということを考える必要はあろうかと思えます。

これから先、あの素晴らしい「リパティタワー」が世間に喧伝されていくでしょうけれど、その中に同時に、あの記念館の不思議な色をした歴史ある建物のイメージも重ね合わせながら、これから生きていくと、素晴らしい未来になるのではないかと考えております。

ご紹介ありましたように、卒業以来、広告をやり、テレビをやり、歌をやり、小説をやり、映画をやりと、ほぼ三十数年間、時代というものを常に追いかけてながら仕事をし、時代の中の顔というものを、何とかつかみ取りたいということを仕事のテーマにしてきました。しかし、もう時代は追っかけるばかりではない。前へ行ってくれる時代というのが、果たして全部信用していかどうかというのは分からない時代に来た。

せつかくの場ですから、皆様に「贈る言葉」として、偉そうなことは言いませんが、職業を通して得た、ある

いは日常の活動を通して得た、時代に関する僕の考え方を詩にまとめたものがありますので、それをちょっと聴いていただきたいと思います。

時代おくれの新しさ

時代に遅れないように
というのがモットーで
そればかりを考えて来たが
近頃になって
どうしたら上手に
時代に遅れられるだろうかと
懸命に考えている

時代という不確かなものが
まるで被害妄想のように
お色直しをくり返しているが
ずっとそれにつき合っているが
ぼくらは風邪をひいてしまっ
また
折角着たものに馴染むひまもない
だからと云って
時代ばなれでいいわけではなく
走りまわる時代を
きちんと見つめながら
「勝手にジタバタしなさいよ」
ぐらいのことは云っていい段階
ということである
変わらなくてもいい変化
不必要な新しさ
人間を馬鹿にした進歩
それらを正確により分け
すぐに腐る種類の新しさや
単なる焦りからの変化には
「パス」
と叫んでも悪くない
しかし
そのためには
新しがるよりもっと正確に
時代の知識が必要になる
一步先へ行って
時代遅れを選択する
やっぱり
幸福を考えたいから

きょう皆さん、これで社会に飛び出します。時代をきっちり見ながら、時代の風を受け、しかも、時代の風邪をひかないように、元気で頑張ってください。

きょうは、ありがとう。

1998年3月26日 武道館
卒業式に於いて

夢は砕けて夢と知り
愛は破れて愛と知り
時は流れて時と知り
友は別れて友と知り
阿久悠

第33回 明治大学中央図書館企画展示 阿久悠展 — 君の唇に色あせぬ言葉を —

企画・編集：明治大学中央図書館ギャラリー企画運営WG

伊能秀明、鈴木秀子、吉田千草、宮澤順子、仲山加奈子、小倉葉子、永田由香利

資料提供・協力：(株)阿久悠、(株)オフィス・トゥー・ワン

明治大学大学史資料センター

発行：明治大学図書館（東京都千代田区神田駿河台1-1）

発行日：2009年10月15日

制作：(株)サンヨー

阿久悠展 展示品リスト

(所蔵先) ♪: (株)阿久悠
 ♪: (株)オフィス・トゥー・ワン

	品名	内容・タイトル	所蔵先
1	トロフィー	第13回日本レコード大賞 大賞 「また逢う日まで」 東京放送	♪
2	トロフィー	第18回日本レコード大賞 大賞 「北の宿から」 東京放送	♪
3	トロフィー	第19回日本レコード大賞 大賞 「勝手にしやがれ」 東京放送 阿久悠殿	♪
4	トロフィー	第20回日本レコード大賞 大賞 「UFO」 東京放送 阿久悠殿	♪
5	トロフィー	第22回日本レコード大賞 大賞 「雨の慕情」 東京放送	♪
6	トロフィー	第2回日本歌謡大賞 大賞 「また逢う日まで」 1971年 放送音楽プロデューサー連盟	♪
7	トロフィー	第7回日本歌謡大賞 大賞 「北の宿から」 1976年 放送音楽プロデューサー連盟	♪
8	トロフィー	第8回日本歌謡大賞 大賞 「勝手にしやがれ」 1977年 放送音楽プロデューサー連盟	♪
9	トロフィー	第9回日本歌謡大賞 大賞 「サウスポー」 1978年 放送音楽プロデューサー連盟	♪
10	トロフィー	第11回日本歌謡大賞 大賞 「雨の慕情」 1980年 放送音楽プロデューサー連盟	♪
11	トロフィー	第2回横溝正史賞「殺人狂時代 ユリエ」 昭和57年5月 角川書店	♪
12	トロフィー	第7回島清恋愛文学賞「詩小説」 石川県美川町	♪
13	トロフィー	功労賞 選抜高等学校野球大会 新大会歌 作詞 阿久悠殿 平成5年1月22日	♪
14	盾	第13回日本レコード大賞 大賞 1971年度 「また逢う日まで」 作詞 阿久悠殿	♪
15	盾	第18回日本レコード大賞 大賞 1976年度 「北の宿から」 作詞 阿久悠殿	♪
16	盾	第19回日本レコード大賞 大賞 1977年度 「勝手にしやがれ」 作詞 阿久悠殿	♪
17	盾	第20回日本レコード大賞 大賞 1978年度 「UFO」 作詞 阿久悠殿	♪
18	盾	第22回日本レコード大賞 大賞 1980年度 「雨の慕情」 作詞 阿久悠殿	♪
19	盾	第14回日本レコード大賞 童謡賞 1972年度 「ピンポンパン体操」 作詞 阿久悠殿	♪
20	盾	第15回日本レコード大賞 作詩賞 1973年度 「ジョニーへの伝言」「街の灯り」「じんじんさせて」他 阿久悠殿	♪
21	盾	第17回日本レコード大賞 作詩賞 1975年度 「乳母車」 阿久悠殿	♪
22	盾	第27回日本レコード大賞 作詩賞 1985年度 「夏ざかりほの字組」 阿久悠殿	♪
23	盾	第28回日本レコード大賞 作詩賞 1986年度 「熱き心に」 阿久悠殿	♪
24	盾	第32回日本レコード大賞 作詩賞 1990年 「花束」 歌謡曲・演歌部門 阿久悠殿	♪
25	盾	第36回日本レコード大賞 作詩賞 1994年 「花のように鳥のように」 阿久悠殿	♪
26	盾	第38回日本レコード大賞 作詩賞 1996年 「螢の提灯」 阿久悠殿	♪
27	盾	第7回日本作詩大賞 大賞 1974年 「さらば友よ」 作詞 阿久悠殿	♪
28	盾	第9回日本作詩大賞 大賞 1976年 「北の宿から」 作詞 阿久悠殿	♪
29	盾	第10回日本作詩大賞 大賞 1977年 「勝手にしやがれ」 作詞 阿久悠殿	♪
30	盾	第14回日本作詩大賞 大賞 1981年 「もしもピアノが弾けたなら」 作詞 阿久悠殿	♪
31	盾	第15回日本作詩大賞 大賞 1982年 「契り」 作詞 阿久悠殿	♪
32	盾	第17回日本作詩大賞 大賞 昭和59年度 「北の螢」 作詞 阿久悠殿	♪
33	盾	第21回日本作詩大賞 大賞 1988年度 「港の五番町」 作詞 阿久悠殿	♪
34	盾	第35回日本作詩大賞 大賞 2002年度 「傘ん中」 作詞 阿久悠殿	♪
35	自筆原稿	歌詞 「また逢う日まで」	♪
36	自筆原稿	歌詞 「北の宿から」	♪
37	自筆原稿	歌詞 「勝手にしやがれ」	♪
38	自筆原稿	歌詞 「UFO」	♪
39	自筆原稿	歌詞 「雨の慕情」	♪
40	自筆原稿	歌詞 「熱き心に」	♪
41	自筆原稿	歌詞 「ジョニーへの伝言」	♪
42	自筆原稿	歌詞 「ピンポンパン体操」	♪
43	自筆原稿	エッセイ 「作家の母校～明治大学」 (掲載誌不明:集英社)	♪
44	自筆原稿	エッセイ 「アナログの鬼」 (1999年9月16日に行われた「紫綬褒章受賞を祝う会」において発表された詩)	♪
45	自筆原稿	エッセイ 「時代を超えた歌たちよ」 (2002年、作詞家生活35周年記念のテレビ番組のために書いた詩)	♪
46	原稿用紙	阿久悠ネーム入り原稿用紙	♪
47	映画パンフレット	映画「瀬戸内少年野球団」 プレスリリース用	♪
48	映画パンフレット	映画「瀬戸内少年野球団青春篇～最後の楽園～」 プレスリリース用	♪
49	映画パンフレット	映画「瀬戸内ムーンライト・セレナーデ」 プレスリリース用	♪

	品名	内容・タイトル	所蔵先
50	映画チラシ	映画「瀬戸内ムーンライト・セレナーデ」	b
51	台本	映画「瀬戸内少年野球団・青春篇～最後の楽園～」決定稿	b
52	DVD	「瀬戸内三部作」DVD-BOX	b
53	CD	「阿久悠を歌った100人 熱き心に～男性歌謡曲編」テイチクエンタテインメント 2007.11	b
54	CD	「阿久悠を歌った100人 ざんげの値打ちもない～女性歌謡曲編」コロムビア 2007.11	b
55	CD	「阿久悠を歌った100人 勝手にしやがれ～男性ポップス編」UNIVERSAL 2007.11	b
56	CD	「阿久悠を歌った100人 わたしの青い鳥～女性アイドル編」ビクターエンタテインメント 2007.11	b
57	CD	「阿久悠を歌った100人 青春時代～GS・フォーク・ニューミュージック編」ソニー・ミュージックダイレクト 2007.10	b
58	CD	「人間 万葉歌」～阿久悠作詩集 ビクターエンタテインメント 2005.6	b
59	CD	「続・人間 万葉歌」～阿久悠作詩集 ビクターエンタテインメント 2008.9	b
60	CD	「青春期～阿久悠作詞集<春>」ビクターエンタテインメント 2008.4	b
61	CD	「恋夏期～阿久悠作詞集<夏>」ビクターエンタテインメント 2008.7	b
62	CD	「思秋期～阿久悠作詞集<秋>」ビクターエンタテインメント 2008.10	b
63	CD	「感冬期～阿久悠作詞集<冬>」ビクターエンタテインメント 2009.1	b
64	CD	「歌鬼 (Ga-Ki) ～阿久悠トリビュート～」 UNIVERSAL 2008.7	b
65	CD	「歌鬼2～阿久悠vs.フォーク～」 UNIVERSAL 2009.2	b
66	CD	「君の唇に色あせぬ言葉を 阿久悠作詞集1978」ビクターエンタテインメント 2007.12	b

67	タブロイド誌	「月刊 You」No.1～No.47 1976.9～1980.8	b
68	スクラップブック	スポーツニッポン「甲子園の詩」1988年～2003年分	b
69	掲載記事	「甲子園の詩・特別編 ～2006年いい夏～ 熱いときめき 胸さわぎをありがとう」(『スポーツニッポン』 2006年8月22日)	b
70	掲載記事	「明治大学特別功労賞に 作詞・作家の阿久悠氏」(『明治大学広報』第432号 1998年4月1日)	明治大学図書館
71	掲載記事	「感傷は人の感性の波立ち」(『明治大学学園だより』第82号 1979年7月16日)	b
72	カレンダー	2000年上村一夫イラストカレンダー	b
73	ポストカード	上村一夫イラストポストカード	b
74	雑誌	「随想－大学史の窓 時代の風」(『紫紺の歴史：大学史紀要』第3号 1999)	明治大学図書館
75	図書	「『甲子園の詩』と私」(『スポーツニッポン新聞50年史』通史 I 1999.3)	明治大学図書館

76	シングルジャケット	「また逢う日まで」	b
77	シングルジャケット	「北の宿から」	b
78	シングルジャケット	「勝手にしやがれ」	b
79	シングルジャケット	「雨の慕情」	b
80	シングルジャケット	「熱き心に」	b
81	シングルジャケット	「ジョニィへの伝言」	b
82	シングルジャケット	「ピンポンパン体操」	b
83	シングルジャケット	「乙女のワルツ」	b
84	シングルジャケット	「もしもピアノが弾けたなら」	b
85	シングルジャケット	「時代おくれ」	b
86	シングルジャケット	「白い蝶のサンバ」	b
87	シングルジャケット	「ざんげの値打ちもない」	b
88	シングルジャケット	「せんせい」	b
89	シングルジャケット	「ひまわり娘」	b
90	シングルジャケット	「円舞曲」	b
91	シングルジャケット	「さらば友よ」	b
92	シングルジャケット	「ロマンス」	b
93	シングルジャケット	「わたしの青い鳥」	b
94	シングルジャケット	「BOY」	b
95	シングルジャケット	「素敵にシンデレラ・コンプレックス」	b
96	シングルジャケット	「津軽海峡・冬景色」	b
97	シングルジャケット	「時の過ぎゆくままに」	b
98	シングルジャケット	「サムライ」	b
99	シングルジャケット	「鳥の詩」	b
100	シングルジャケット	「契り」	b
101	シングルジャケット	「居酒屋」	b
102	シングルジャケット	「学園天国」	b
103	シングルジャケット	「第二章くちづけ」	b
104	シングルジャケット	「狂わせたいの」	b
105	シングルジャケット	「瀬戸内行進曲」	b

	品名	内容・タイトル	所蔵先
106	シングルジャケット	「夏ざかりほの字組」	b
107	シングルジャケット	「絹の靴下」	b

阿久悠著作リスト

著書（単行本）

	書名	出版社	出版年	備考	展示
1	作詞入門：阿久式ヒット・ソングの技法（サンポウブックス）	産報	1972		○
2	36歳・青年時にはざんげの値打ちもある	講談社	1973		
3	男と女の部屋	双葉社	1973.5	画：上村一夫	
4	悪魔のようなあいつ（1）	講談社	1975.6	画：上村一夫	
5	花心中（1）	講談社	1975.8	画：上村一夫	
6	悪魔のようなあいつ（2）	講談社	1975.9	画：上村一夫	
7	花心中（2）	講談社	1975.9	画：上村一夫	
8	ヒット：阿久悠の実戦的作詞講座（上）	スポーツニッポン新聞社出版局	1975		○
9	明治大学百年の顔	明治大学雄弁部 暁書房（発売）	1977.1	明治大学雄弁部編 「わが学生時代」収録	○
10	阿久悠の実戦的作詞講座（下）	スポーツニッポン新聞社出版局	1977.2		○
11	ゴリラの首の懸賞金（上）	スポニチ出版	1978.2		○
12	ゴリラの首の懸賞金（下）	スポニチ出版	1978.2		○
13	歌は世につれ：シンポジウム：今日の大衆と音楽	講談社	1978.8	共著	
14	阿久悠の魚眼思考	自由ブックス社	1987.10		
15	未完青書：生きることがファンタジー （明星デュエット・ブックス）	集英社	1979.5		○
16	大衆の心理：流行歌にみる（現代セミナー；4）	現代研究会	1979.7		
17	阿久悠の仕事の知恵：まず魚眼思考で展望を開け	自由国民社	1979.8		○
18	瀬戸内少年野球団	文芸春秋	1979.11	映画化（ヘラルドエース） 第82回直木賞候補	○
19	流行歌：情念の化学	講談社	1980.3	共著	
20	未完青書：愛をみつけるために（集英社文庫）	集英社	1981.4		
21	紅顔期	文芸春秋	1981.6		○
22	地獄の総統：ゴリラの首の懸賞金（上）（角川文庫）	角川書店	1981.6		○
23	悪魔の祝祭：ゴリラの首の懸賞金（下）（角川文庫）	角川書店	1981.6		○
24	家族の神話	講談社	1981.7	連続TVドラマ化（MBS）	○
25	殺人狂時代ユリエ（カドカワノベルズ）	角川書店	1982.3	第2回横溝正史賞受賞	○
26	時にはざんげの値打ちもある（角川文庫）	角川書店	1982.7		○
27	家族の晩餐	講談社	1982.12	連続TVドラマ化（YTV）	○
28	阿久悠の作詞術入門	ドレミ楽譜出版社	1983.6		
29	阿久悠自選詞集	グラフ社	1983.6		○
30	鳥獣戯歌	角川書店	1983.7		○
31	プレイバック高校時代（3）	福武書店	1983.10	共著	
32	瀬戸内少年野球団（文春文庫）	文芸春秋	1983.11	TVドラマ化（CX）	○
33	阿久悠とすばらしき仲間たち	福武書店	1983.11	12の対談と12のエッセイ＋未発表詩4篇	○
34	なに？お巡りさんが…：スラップスティック・スーパーマン	角川書店	1984.5	掌編小説集	○
35	甲子園の詩	福武書店	1984.6	スポーツニッポン新聞連載	○
36	家族の晩餐（講談社文庫）	講談社	1984.7		○
37	家族の神話（講談社文庫）	講談社	1984.9		○
38	最後の樂園：長編小説	光文社	1984.12	映画化（日本ヘラルド）	○

	書名	出版社	出版年	備考	展示
39	瀬戸内少年野球団 (続) (文春文庫)	文芸春秋	1985.5	「紅顔期」文庫化	○
40	くたばれテレビジョン	角川書店	1985.5	「サ・テレビジョン」連載 「13チャンネル金曜日」より	○
41	イブの黙示録 (角川文庫)	角川書店	1985.7	掌編小説集	○
42	A面B面：作詞・レコード・日本人	文芸春秋	1985.8	和田誠との共著	○
43	甲子園の詩 (part 2)	福武書店	1985.9	スポーツニッポン新聞連載	○
44	殺人狂時代ユリエ (角川文庫)	角川書店	1985.10		○
45	人生は第二志望で成功する：阿久悠の夢宙塾	徳間書店	1985.12		○
46	最後の楽園：瀬戸内少年野球団・青春編 長編小説 (光文社文庫)	光文社	1986.8		○
47	甲子園の詩 (part 3)	福武書店	1986.9	スポーツニッポン新聞連載	○
48	ちりめんじゃこの詩 (文春文庫)	文芸春秋	1986.11	公明新聞連載	○
49	男の純情集団：長編小説	光文社	1987.2	ビデオドラマ化 (TBS)	
50	喝采 「喝采」「隣のギャグはよく客食うギャグだ」(「喝采」収録) 「ジャック・レモンによろしく」(「喝采」収録)	文芸春秋	1988.1	TVドラマ化 (YTV) 「喝采」 第99回直木賞候補 TVドラマ化 (TBS) 「マンションの鍵貸します」	○
51	瀬戸内：写真集	毎日新聞社	1988.3	写真：森田敏隆	
52	キングの火遊び：ベビーシッター・ダンディ・ブルース (カドカワノベルズ)	角川書店	1988.7	ビデオドラマ化 (東映ビデオ)	
53	どうせこの世は猫またぎ：Odd eye essay	毎日新聞社	1988.10	共著	○
54	あッ識捻転 (鳩よ!の本)	マガジンハウス	1988.10		○
55	墨ぬり少年オペラ	文芸春秋	1989.1	舞台化 第101回直木賞候補	○
56	ぼくといとこの甘い生活	集英社	1989.8		○
57	飢餓旅行	講談社	1990.4	映画化 (松竹/オフィス・トゥー・ワン/CX/ホニーキャニオン) 題名「瀬戸内ムーンセレナーデ」	○
58	グッドバイ：BN童子の青春	集英社	1990.4		○
59	おかしなおかしな大誘拐 (集英社文庫)	集英社	1990.5	「なに?お巡りさんが…」改題	○
60	喝采 (文春文庫)	文芸春秋	1991.1		○
61	女が35歳で (part 3)	マガジンハウス	1991.9	共著	
62	阿久悠 歌は時代を語りつづけた：写真詩集	日本放送出版協会	1992.1	写真：土田ヒロミ	○
63	家族元年	文芸春秋	1992.2		○
64	夏の終りに	講談社	1992.5		○
65	無名時代	集英社	1992.12		○
66	夢を食った男たち	毎日新聞社	1993.6		○
67	言葉の達人たち	扶桑社	1993.10		○
68	飢餓旅行 (講談社文庫)	講談社	1993.11		○
69	絹婚式	文化出版局	1994.5	月刊女性誌「ミセス」連載	○
70	国語六下 希望	光村図書出版	1995.6	小学校国語科用教科書 「ガラスの小びん」収録	○
71	恋歌ふたたび	講談社	1995.7	新聞連載	○
72	あこがれ	河出書房新社	1995.11	ラジオドラマ化 (TBS)	○
73	より豊かに生きる発想法	廣済堂出版	1995		
74	ちょっとお先に	河出書房新社	1996.2	掌編小説集	○

	書名	出版社	出版年	備考	展示
75	銀幕座二階最前列	講談社	1996.7	UCカード会員誌「THE CARD」連載	○
76	ベースボール・パラダイス	河出書房新社	1996.9	掌編小説集	○
77	恋文	文化出版局	1997.4	掌編小説集 ラジオドラマ化 (TBS)	○
78	夢を食った男たち：「スター誕生」と黄金の70年代 (道草文庫)	小池書院	1997.8		
79	書き下ろし歌謡曲 (岩波新書)	岩波書店	1997.8		○
80	球心蔵	河出書房新社	1997.12	ラジオドラマ化 (LF)	○
81	少女物語	朝日新聞社	1998.5	共著 朝日新聞連載「ありし日の歌物語」収録	
82	第3の家族：テレビ、このやっかいな同居人	KSS出版	1998.12	「ピカロ」連載	○
83	絹婚式 (河出文庫)	河出書房新社	1999.2		○
84	あこがれ (河出文庫)	河出書房新社	1999.3		○
85	歌謡曲って何だろう	日本放送出版協会	1999.7	NHK教育「放送講座」テキスト本	
86	愛すべき名歌たち：私的歌謡曲史 (岩波新書)	岩波書店	1999.7	朝日新聞夕刊連載	○
87	木炭日和 (ベスト・エッセイ集；1999年版)	文藝春秋	1999.7	日本エッセイスト・クラブ編 「あなたは寅さんを愛せますか?」収録	
88	A面B面：作詞・レコード・日本人 (ちくま文庫)	筑摩書房	1999.10	和田誠との共著	○
89	球心蔵 (河出文庫)	河出書房新社	1999.11		○
90	詩小説	中央公論新社	2000.1		○
91	恋文 (河出文庫)	河出書房新社	2000.2		
92	文楽：歌謡曲春夏秋冬	河出書房新社	2000.5		○
93	ラヂオ	日本放送出版協会	2000.7	ラジオドラマ化 (NHK-FM)	○
94	15の知・15の指針：大学講義の成果と検証	流通科学大学出版	2000.10	共著 流通科学大学講演再録	
95	愛すべき名歌たち：私的歌謡曲史 (全3冊)	日本点字図書館	2001.4		
96	もどりの春	中央公論新社	2001.6		○
97	転がる石	文藝春秋	2001.7	「オール読物」連載	○
98	この人生の並木路 (随想集「プロムナード」；1)	恒文社21 恒文社 (発売)	2002.1	共著 日本経済新聞夕刊連載 「歌のプロムナード」収録	
99	ガラスの小びん：ほか (光村ライブラリー；第15巻)	光村図書出版	2002.3	共著	
100	花謡曲：写真集	毎日新聞社	2002.11	写真：大出一博	
101	ただ時の過ぎゆかぬように：僕のニュース詩	岩波書店	2003.1	阿久悠オフィシャル・ホームページ連載	○
102	昭和おもちゃ箱	産経新聞ニュースサービス 扶桑社 (発売)	2003.2	「正論」連載	○
103	日記力『日記』を書く生活のすすめ (講談社+α新書)	講談社	2003.6		○
104	なぜか売れなかったが愛しい歌	河出書房新社	2003.7		○
105	山手線外廻り (上村一夫珠玉作品集；4)	愛育社	2004.4	共著	
106	生きっぱなしの記	日本経済新聞社	2004.5	日本経済新聞連載 「私の履歴書」より	○
107	詩小説 (中公文庫)	中央公論新社	2004.6		○
108	人生の落第坊主 (ベスト・エッセイ集；2004年版)	文藝春秋	2004.7	日本エッセイスト・クラブ編	
109	歌謡曲の時代：歌もよう人もよう	新潮社	2004.9		○
110	悪魔のようなあいつ (上) (復刻版) (ニュータイプ100%コミックス)	角川書店	2004.11	漫画：上村一夫	○

	書名	出版社	出版年	備考	展示
111	悪魔のようなあいつ (下) (復刻版) (ニュータイプ100%コミックス)	角川書店	2004.11	漫画:上村一夫	○
112	犬猫太平記	河出書房新社	2004.12		○
113	深田祐介の憂国十番勝負	PHP研究所	2005.7	共著	
114	昭和おもちゃ箱 (知恵の森文庫)	光文社	2005.10		○
115	ヒットメーカー:ロングインタビュー (読売ぶっくれっと; no.52.時代の証言者; 11)	読売新聞東京本社	2005.11	読売新聞解説部[編]	
116	「企み」の仕事術 (男のVシリーズ)	KKロングセラーズ	2006.8		○
117	人生の落第坊主 (ベスト・エッセイ集; 2004年版) (文春文庫)	文藝春秋	2007.7	日本エッセイスト・クラブ編	
118	清らかな厭世:言葉を失くした日本人へ	新潮社	2007.10	産経新聞連載	○
119	男と女の部屋 (復刻版)	小池書院	2007.10	画:上村一夫	○
120	阿久悠命の詩:『月刊you』とその時代	講談社	2007.12		○
121	阿久悠のいた時代:戦後歌謡曲史	柏書房	2007.12	篠田正浩, 齋藤愼爾責任編集	○
122	夢を食った男たち:「スター誕生」と歌謡曲黄金の70年代 (文春文庫)	文藝春秋	2007.12		○
123	生きっぱなしの記 (日経ビジネス人文庫. 私の履歴書)	日本経済新聞出版社	2007.12		○
124	歌謡曲の時代:歌もよう人もよう (新潮文庫)	新潮社	2007.12		○
125	路地の記憶	小学館	2008.2	写真・エッセイ:佐藤秀明	
126	テレビ、このやっかいな同居人 (朝日文庫)	朝日新聞出版	2008.5	「第3の家族」(KSS出版1998年刊)の改訂	○
127	歌謡曲春夏秋冬:音楽と文楽 (河出文庫)	河出書房新社	2008.7	「文楽」(2000年刊)の改題	○
128	なぜか売れなかったぼくの愛しい歌 (河出文庫)	河出書房新社	2008.7	「なぜか売れなかったが愛しい歌」 (2003年刊)の改題	○
129	華:君の唇に色あせぬ言葉を	産経新聞出版	2008.9	写真:大出一博	○
				阿久悠追悼集編集委員会編	